

生命機能研究科

【アドミッション・ポリシー】

大阪大学のアドミッション・ポリシーを受けて、以下の教育理念に基づき試験を実施します。

生命機能研究科は、生命科学の最先端を切り開くリーダーの育成を目指す研究機関です。近年、生命科学の分野には、ゲノム情報の解読、改変された遺伝子の導入法の確立など大きな変革が相次ぎ、医薬、農業、材料工学などへ、従来では予想できない形での応用の可能性が広がり、またその一方で、生命の根源に迫る問い合わせのいくつかが解決されようとしています。研究手法も高度化し、これまでの、遺伝学、酵素学が主体のいわゆる「生物学」から、光工学、情報工学、ロボットなどの他分野の先端技術を利用する複合的な分野へと変化しています。このような生命科学の新時代に対応するため、本研究科では、幅の広い教授陣を揃え、医学、工学、理学を融合した環境で5年一貫制の教育を行い、想像力に優れ、自分の研究で世界を切り開いていける、新時代のリーダーとなるべき人材を育てます。

求める資質として最も重要なものは、探究心と想像力、そして対外的な交渉のための語学力です。現状での知識も必要ですが、それは入学後でも十分に得られるものであると考えます。そのため試験では、十分な時間を持って、口頭試問と言う形で議論することで、志願者1人1人の科学者としての将来性を見極めます。また、国際的に活躍できる研究者であるための必須の要素として、英語による意思伝達能力が重要です。英語に関しては、TOEIC等のスコアを利用することで、より実用的な英語能力を試験します。